新日本保険新聞
（損保版）
第１～４月曜日発行
発行所　新日本保険新聞社
大阪市西区靱本町１丁目５－15
（郵便番号550-0004）
電話　(06) 6225－0550（代表）
FAX　(06) 6225－0551（専用）
購読料　１か月2200円
（消費税、送料込み）
©新日本保険新聞社 2020

シンニチ保険Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー閲覧パスワード
Milesahead
2020年4月6日 AMまで
※偶数月の第一月曜日正午ごとに変更

「利他」の精神で代協活動をする

神奈川代協

損害保険トータルプランナー認定証授与式と新年会「新春の集い」開催

懸念される自然災害の脅威

地域のリスクマネージャーの役割を

神奈川代協（雨宮豊会長）は1月15日、横浜市のロイヤルホールヨコハマで、損害保険トータルプランナー認定証授与式と新年会「新春の集い」を開いた。同代協での今年度の損害保険トータルプランナー認定取得者は64名。授与式では、代協会員や保険会社社員などが認定取得者を祝した。

雨宮会長

授与式に先立ち雨宮会長が挨拶。保険代理店が代協活動に臨む姿勢について同会長は「周囲の代理店からは時折、この忙しいときに代協活動などできないという声が寄せられる。また、代協活動はボランティアだという声も耳にする。ボランティア活動自体はとてもすばらしいものだと思うが、私は以前から、代協活動がボランティアだという考えに違和感を持っていた。なぜなら、私たち代理店が自分から代協活動はボランティアだと言ってしまうと、自らの活動にリミッターがついてしまうように思えるからだ」と自身の考えを示した。

出席した認定取得者

こうしたなか最近になって、同会長が日ごろ敬意を払う運送会社の社長が経営方針に掲げている「利他」という言葉を目にしたとき、自身がそれまで抱いていた違和感が解消され、代協活動は利他の取り組みだという思いを強く持つことができたという。

そのうえで同会長は「利他とは自らの利益ではなく他者の利益を優先するという意味であり、この考えに基づけば代協活動にリミッターがつくことはない。人のためを思って活動していくと他者の賛同や協力につながり、結果的に自分たちのためになる。仲間も増えるだろう。自分のためにも、そして業界をよくするためにも、この利他という考え方は極めて有効な手段だと思う。それはまさに、顧客本位の業務運営の根幹は利他の心を持つということなのではないだろうか。神奈川代協としても、利他の精神で活動していきたいと思う」と呼びかけた。

来賓者からは損保協会南関東支部神奈川損保会の神野真会長と日本代協の小俣藤夫理事が挨拶。自然災害に言及した神野氏は「今年も懸念されるのは自然災害の脅威だ。私たち損保業界は地域の皆さまに向けて、各種リスクにどう対処すべきなのかをしっかりとアドバイスしていかなければいけない」と強調。そのうえで代理店に対しては「お客様が万が一罹災したときはお客様に寄り添い、しっかりとお守りしてもらいたい」と地域のリスクマネージャーとしての役割を求めた。

日本代協の小俣氏は新たにトータルプランナーの認証を取得した募集人たちに向けて「資格を取ってからがスタートという思いで、これまで磨いた技をお客様のためにフルに発揮してもらいたい」と期待。自然災害への損保業界の取り組み姿勢については「これからはビフォーの仕事、つまり減災に努めていくことが大事だ」と述べ、代協会員の地域での活躍を呼びかけた。

認定授与式では、当日出席した認定取得者一人ひとりに損保協会の神野氏から認定証と記念品が手渡された。

新たな損害保険トータルプランナーを代表して挨拶した小平祐司氏（株式会社日本リスクコンサルタント）は「トータルプランナーの資格取得を目指すことにしたのは、代理店はプロでなければならないという思いを持っていたからだ。おかげさまで、社内のサポートや損保関係者の協力のおかげで合格することができた。今後は保険を取り扱うプロとしての自覚を持ち、誇りを持って邁進していきたい」と述べた。

その後、「新春の集い」に移り、参加者間で親睦を深めた。